

令和 6 年 2 月 15 日

松阪市議会議長 坂口 秀夫 様

広報広聴委員会

委員長 殿村 峰代

令和 6 年 2 月 7 日に先進地視察を実施しましたので、下記の通り報告いたします。

日 時 令和 6 年 2 月 7 日水曜日(1 日間)

派遣先 兵庫県西宮市 議会事務局 議事調査課

参加議員 広報広聴委員会 (8人)

委員長 殿村 峰代 副委員長 濱口 高志

委員 森 遥香 委員 奥出 かよ子 委員 橘 大介

委員 市野 幸男 委員 坂口 秀夫 委員 海住 恒幸

目的 議会の広報と広聴を同日に行う議会報告会は、毎年 2 回松阪市全域対象に行っているが、コロナ禍を経験し、その後の報告会への市民の参加減少が目立っている。

議会の広報及び広聴の先進的な取り組みを行っている
西宮市のバーチャル市議会、議会体感ツアー、高校生の市議会体験の取組の
実際を学び、参考とする。

対応者 西宮市 議会事務局 議事調査課 課長 大西 正幸 氏
西宮市 議会事務局 議事調査課 副主査 芝 洋亮 氏

視察事項 「バーチャル市議会、議会体感ツアー、高校生の市議会体験の取組について」

視察要旨 1, バーチャル市議会

1)高校生の議会体験

経緯:平成 28 年度に県立西宮今津高校教諭より、高校 2 年生が市議会議員から話を聞いたり質問する機会を得たいと依頼があった。

正副議長、広報広聴特別委員会正副委員長が学校と打合せ・調整を行い、
平成 28 年 10 月 20 日に初回実施。

目的:市議会を訪問し、西宮が抱えている課題を学び、市議会議員に直接質問対話することで自分たちの住む西宮への理解を深め、高校生の市民性を養う機会とする。さらに、来年18歳に生じる投票権の意味についても学ぶ。

- 内容: ①全体の流れ説明と議員紹介(約 5 分)
②議長挨拶、議場の説明(約 5 分)
③市議会の仕組みの説明(約 40 分)
④模擬一般質問(約 50 分) 生徒 3~4 人で 5 グループ各約 10 分
議長が本会議の次第に沿って進行役
生徒が議員役で質問・意見・要望
議員が当局役で答弁
⑤振り返り・まとめ(約 5 分)
⑥議場で記念撮影(約 5 分)

2)大学生の議会体験

経緯:平成 30 年 6 月、関西学院大学経済学部を担当教授より「議会だより」を見て、バーチャル市議会をゼミで行いたいと相談があった。ゼミ内で、事前学習・調査研究ののち、令和元年 11 月 23 日実施。(以降は新型コロナウイルス感染症の影響により実施見合わせ)

目的:・数年後に就職活動を行う大学生に、基礎自治体の大切さ、市議会の機能や仕組みを学ぶことは、市民社会に生きる大学生にとって貴重な経験となる。
・バーチャル市議会を通じて、大学生の資料収集能力、ヒアリング能力、分析・政策形成能力を養うとともに、西宮市の具体的な事務事業をテーマにすることで、現実的な学びが展開できる。

概要:ゼミの生徒(3 年生)が西宮市事務事業から一人一事業(延べ 23 事業)を選定し、資料収集・調査研究を行い、ロジックモデルを活用し、有効性・効率性を解析して模擬的に評価を行う。

バーチャル市議会当日はゼミ生が一人ずつ「模擬事業評価」(プレゼン)の発表を行い、一事業ずつ議員が評価する。一事業 10 分。

出席者:議員(有志)	21 人
3 年ゼミ生	19 人
1 年ゼミ生	若干名傍聴

2. 議会体感ツアー

経緯:西宮市議会広報広聴特別委員会において、議会報告会の取扱いを協議する中、議会報告会という形式にとらわれない、西宮市独自の、より効果的な住民参加型の広報・広聴手段を研究することになり、まずはその一つとしてより多くの方に議会を知ってもらい、気軽に体感してもらえる場として、にしのみや市民祭りに共催参加し、「議会体感ツアー」を実施することとなった。

(平成 28 年度から実施。令和 5 年度で 6 回開催。令和 2, 3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で市民祭りが中止のため未実施)

内容:有志議員がツアーガイド役となり、議会棟を案内し、議場では市議会の仕組みの説明、議会クイズなどを実施。

議員は 2 名ペアとなり、祭り当日 12 時から 16 時まで1時間ごと計 5 回実施。

1 回 定員 48 名 30~40 分

終了後、記念撮影、粗品(ボールペン)の進呈。

流れ:当日まで 実行委員会(広報委員 6 人)3 回

ツアー班(3 人)・・・スライド作成・クイズの作成・リニューアル

ブース・ノベルティ班・・・記念品選定・議会だより特別号(チラシ)作成

放映スライド作成

当日 設営・受付(整理券配布)・案内チラシ配り(市民祭り参加者など)

レストスペースにて市政広報 VTR を放映・椅子準備。

12 時より議員 2 名が順に議会棟を案内し、議場まで誘導。

Projector を使用し、議員が掛け合い漫才のように議会の仕事を説明。

その後質疑応答。アンケート記入後、自由に記念撮影(人気スポットは市長席・議長席)。

令和 5 年度実施費用:記念品代(ボールペン)300 本 @109円 約 35,970 円(税込)

議会だより特別号 2500 部 約 6,761 円(税込)

当日参加議員:有志 33 人

議会事務局:8 人

3. 高校生の市議会体験

経緯:従来より、市立西宮高等学校の特殊選抜クラスの生徒が市庁舎を訪問し、市長との懇談や防災研修が行われていた。

平成 29 年に教諭より上記に加え、議会を訪問して議場に関する学習を行いたいと依頼があり、受け入れた。

内容:1)市庁舎での研修

- ① 市長挨拶(約 5 分)
- ② 生徒 7 名より、市長に対して市政への質問・提案(約 60 分)
- ③ 地域防災支援課より講和(約 60 分)

2)議会棟での研修

- ① 議長挨拶(約 5 分)
- ② 議員より(広報委員 3 名)議会についての説明など(約 30 分)
projector を用い、クイズ形式
- ④ 議場で記念撮影(約 5 分)



質疑応答

Q:高校生の質問内容は鋭いと思うが、議会としてのフィードバックは。

A:基本的にバーチャルのため、議会としてはしていない。議員個人が一般質問に取り入れている。

Q:大学生の質問。もっと高度になると思うが議員の準備は。

A:教授としては当局側に答弁してほしかった。議会はそうはいかないので、ロジックモデルの手法で事務事業の評価発表を議会が評価する形になった。

Q:有志議員はどのように募ったか。

A:議長からの呼び掛けで有志という形になった。

Q:体感というのは本当に議会を感じてもらう目的か。高校生にはどのように。

A:その通り。小さいお子さんもいるので、そのまま体感してもらう。高校生は教科書的に体感してもらう。

Q:議会体験ツアーは一期目議員で構成されているということだが、これに至る構想や実際に費やされる時間などはどのようなか。

A:現在の広報広聴委員は6名で一期目の議員がほとんどで費やされる時間は大変短い。が、それまでの過程で、広報広聴特別委員会として、議相報告会の閉塞化したものをどうしようか2年間ほどの構想があり、「議会体感ツアー」の開催に至った。

Q:「議会体感ツアー」での掛け合い漫才のブラッシュアップはどのように。

A:不思議だが、議員個人の力。映像記録は残っていないので、毎年10月末の市民祭りにお越しいただきたい。

Q:2500枚のチラシ配布は人口に対して少ないが、200人超の来場者という非常に効率の良い集客率。市民祭りに来られた方のみに配っているのか。

A:当日会場近くで配布していることを含め、残さないという形で議員で手分けして手配りをして配り切っている。

Q:記念品・チラシのみが経費か。

A:その通り。

Q:「バーチャル議会・体験議会」は申し出があつてからのことであるが、対象を広げることはされているか。

A:基本は広報広聴委員が担っているが、今以上に広げることは水面下で教育委員が動いている。学校側は良いことだといっているが、議会側の受け皿が整っていないということもある。

Q:「体験ツアー」のクイズはどのように決めているか。

A:広報広聴委員がクイズをリニューアルしている。4～5個を出しているが例えば消防車やごみのことなど西宮市政のことや、議長は誰が決めるかなど議会に関することもあるが、楽しんでいただくことも取り入れ、全く関係のないことも入れるなどしている。

Q:「議会体感ツアー」など議会報告会の代わりとなっていることだが、参加議員が有志議員であることから議会全体の総意としているのか。

A:議会全体の総意としている。有志33名の議員以外は、たまたま市民祭りに参加できなかった。

所 感（順不同）

松阪市における議会（報告会）への市民の関心は、選挙の投票率に現れていると考えるが、年々低下している投票率と、報告会への参加者人数に相関関係を示しているように思う。そんな中、投票率に結びついていないかは人口規模が異なるためわかりにくい。阪神大震災後に 32 万に減少した人口が 48 万人超となっている西宮市において、一日で 276 名（10 代が 30%）の議会体感者が訪れ、整理券がすぐなくなるという「議会体感ツアー」はアグレッシブな議員の挑戦があると感じた。また「バーチャル市議会」や「市議会体験」は生徒に対しても議会に対して真剣に向き合い、さらに親しみを体験できるようにし、将来の選挙者や被選挙者に対しての教育的視点と「共育」的实践があると感じた。

我が松阪市においても「体感ツアー」は議会への理解を深めていただく手段として、松阪市の祭りと共に催すことが可能であれば挑戦もよいのではないかと。カリキュラムの多い学校関係との調整は、一昨年困難をきたしたため、この方法は大きい参考になると感じた。

委員長 殿村峰代

バーチャル市議会、議会体感ツアー、高校生の市議会体験ツアーの取組について非常に画期的な取組みを行っており、特に印象に残ったのが松阪市では議会報告会があるが、それに代わる取組みとして議会体感ツアーがあり毎年、初めて参加される市民が 90%、リピーターが 10%とすばらしい市民参画の環境が出来ており、結果議会が身近なものと感じてもらえる絶好の機会を作っている。また市民祭りに合わせ同時開催で議事場が祭りの中のワンブースという考え方、松阪市でもそういった柔軟な発想が必要だと思う。勿論、人件費は別だが、わずか実費 42,741 円というコストのみでこれだけの事業を行っていることにも感心させられ、今後の議会報告会の在り方を再考する必要があると感じた。

委員 市野 幸男

今回の視察で特に心に残ったのは、「にしのみや市民祭り」と西宮市議会が共催という立場となり、祭りの催しの一部として開催している「議会体感ツアー」である。

従来の議会報告会の形態に捉われない住民参加型の広報の形を模索し始め、開催に至るまでの期間は約 2 年とのこと。あらゆる業界でも人気がある「社会見学」的なハードルの低さで人気のよう。大いに賛同する点としては、議会事務局に負担をかけないように、広報委員＋有志議員が事前準備から当日の運営に自発的に多く携わっているという所。祭りと共催のため、多くの人の目に留まる祭り主催者が作成するチラシにも「議会体感ツアー」が体験ブースの一つのように掲載されている。よって、周知力が高いと推測。また、議会としても独自に議員がチラシを作成し、有志議員が 1000 部をあらゆる所へ配布しているとの事なので、受動的ではなく能動的である。ぜひ松阪市でもこのような、市民の参加ハードルが低い議会広報を開催してみたいと感じた。

委員 森 遥香

議会体験ツアーにおいて、参加者を飽きさせないために、議会クイズを実施している。議会クイズと言いながら、「市章の意味は？」というクイズを出し、参加者から「議会クイズと違いますやん！」とツッコミを誘うのがお決まりらしい。さすが関西人だと感じた。松阪市議会においても、氏郷まつりに合わせて、議会体験ツアーを実施するのも面白いと思う。ただし、その前にお笑い芸人並みのトーク術を身につける必要があるかと思われる。

副委員長 濱口 高志

西宮市議会のバーチャル市議会、議会体感ツアー、高校生の市議会体験の取り組みについて、高校生の議会体験では、市議会を訪問し、西宮が抱えている課題を学び、直接議員に質問、対話することで、自分たちの住む西宮への理解を深め、高校生の市民性を養う機会とし、来年18歳になった時に生まれる投票権の意味についても学ぶ。

また、大学生の議会体験は数年後に就職活動を行う大学生に、基礎自治体の大切さ、市議会の機能や仕組みを学ぶ事は、市民社会に生きる大学生にとって貴重な経験である。

そして議会体感ツアーは、議員(ツアーガイド役)が議会等を案内し、議場では市議会の仕組みの説明、議会クイズなどを実施。議場での記念撮影や記念品を進呈するなどし、西宮の市民祭と合わせて毎年大好評。今後は、小学生、中学生にも市議会に触れてもらえるよう検討し進めていきたいとのこと。

市民の皆様にとって、とても議会が身近に感じてもらえる素晴らしい取組だと思った。松阪市も西宮のように、市民の皆様にも、市議会が身近に感じて頂けるように、取り組んでいくことの重要性を強く感じた。

委員 奥出 かよ子

バーチャル市議会について

高校生の議会体験については、18歳からの選挙権があること自体としての政治への理解にもなり、さらには25歳からは被選挙権を得られることから政治への関心、関わりへとつながっていくことにより若い層の市議会議員へのなり手不足に一石を投じることになるのではと思う。また議員側にとっては普段は執行部への質疑、質問であるが、議員が答弁をすることにより執行部の苦勞の現実も理解が出来ることになりお互いが良い実体験になり議員力の向上にもつながっていくものと思われる。

議会体験ツアーについて

議会を知ってもらうために、市民祭りに共催参加し「議会体験ツアー」を実施されている。松阪市においても市挙げての祭りもあることから、より市議会を知っていただく機会となるので参考にしても良いのではないかと思われる。

委員 坂口 秀夫

「にしのみや市民祭り」の日は議会もスペシャル。

漫談風のトークで議会のことを語る。議会という場所そのものが、まるごと、お祭りのブースになる。訪れる人も多いということだ。

議会はどんなところ？ 議会はどんな仕組みなの？ 知らない市民がほとんどと言っている。それならこんな形で知ってもらおう。それもいい。

こんな活動を通じて、議会の1年を知ってもらえれば。議会報告会ほか、さまざま広聴活動の展開につながるだろう。

委員 海住 恒幸

小、中、高校生、大学生、市民を対象に、模擬議会の体験ツアーを実施し、議会の機能や内容を理解してもらう活動を展開している。しかし、議会報告会において、特に若い世代の参加が少ないという課題がある。このプロジェクトでは、10代の参加者が全体の30%近くを占め、若年層の積極的な参加を促進していると感じた。関西学院大学の学生を対象にした際には、事前準備を行い、執行部役に議員を起用し、答弁を行ってもらった。小中学生相手の答弁は比較的容易かもしれないが、大学生相手の模擬議会は非常に挑戦的なものである。

この取り組みを通じて、先進地の広報広聴の施策を学び、将来的には市政に生かしていきたいと考える。

委員 橘 大介

